第１問

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（　　）の中に記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

１．本日（期首）、前期末に計上した当座借越 ￥650,000 を当座預金勘定に振り戻した。

ア．現金　　イ．当座預金　　ウ．未払金
エ．当座借越　　オ．現金過不足　　カ．貯蔵品

２．阪南株式会社に対する貸付金 ￥1,000,000 の満期日になり、元利合計が普通預金口座に振り込まれた。なお、貸付けの年利率は1.2％、貸付期間は当期中の10か月間であり、利息は月割計算する。

ア．普通預金　　イ．借入金　　ウ．支払利息
エ．受取手数料　　オ．受取利息　　カ．貸付金

３．北関東株式会社から商品 ￥420,000 を仕入れ、代金のうち ￥20,000 は現金で支払い、残額は同社あての約束手形を振り出した。

ア．支払手形　　イ．仕入　　ウ．売上
エ．現金　　オ．当座預金　　カ．受取手形

４．電子記録債権 ￥330,000 が決済され、同額が当座預金口座に振り込まれた。

ア．買掛金　　イ．普通預金　　ウ．受取手形
エ．電子記録債務　　オ．当座預金　　カ．電子記録債権

５．商品 ￥82,000（送料込み）を販売し、代金は掛けとした。また、同時に配送業者へこの商品を引き渡し、送料 ￥2,000（費用処理する）は月末に支払うこととした。

ア．売上　　イ．未収入金　　ウ．未払金
エ．現金　　オ．発送費　　カ．売掛金

６．建物 ￥3,000,000 および土地 ￥2,000,000 を購入し、売買手数料（それぞれの代金の３％）を加えた総額を小切手を振り出して支払い、建物および土地の引渡しを受けた。

ア．建物　　イ．土地　　ウ．未払金
エ．支払手数料　　オ．当座預金　　カ．支払地代

７．決算において、売上勘定の貸方残高を損益勘定に振り替えた。なお、当期の総売上高は ￥4,620,000、売上戻り高は ￥80,000 であり、いずれも売上勘定に転記されている。

ア．利益準備金　　イ．損益　　ウ．雑益
エ．売掛金　　オ．買掛金　　カ．売上

８．従業員が出張から戻り、旅費交通費の精算を行ったところ、現金 ￥2,100 が返金された。なお、この従業員には旅費交通費の概算額として、現金 ￥15,000 を渡していた。

ア．現金過不足　　イ．前払金　　ウ．旅費交通費
エ．仮払金　　オ．現金　　カ．前受金

9．社会保険料について、かねて源泉徴収した従業員負担分 ￥45,000 と当社負担分 ￥45,000 の合計額を普通預金口座から納付した。

ア．租税公課　　イ．従業員立替金　　ウ．給料
エ．普通預金　　オ．法定福利費　　カ．社会保険料預り金

10. 期首に、不用になった備品（取得原価 ￥400,000、減価償却累計額 ￥320,000、間接法で記帳）を ￥20,000 で売却し、売却代金は現金で受け取った。

ア．固定資産売却損　　イ．固定資産売却益　　ウ．備品
エ．現金　　オ．普通預金　　カ．備品減価償却累計額

11. 得意先に対する売掛金（前期販売分）￥47,000 が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は ￥120,000 である。

ア．償却債権取立益　　イ．貸倒損失　　ウ．貸倒引当金戻入
エ．売掛金　　オ．貸倒引当金繰入　　カ．貸倒引当金

12. 法人税等 ￥119,000 の中間申告を行い、現金で納付した。

ア．仮払法人税等　　イ．未払法人税等　　ウ．現金
エ．普通預金　　オ．租税公課　　カ．法人税等

13. 商品 ￥160,000（本体価格）を売り上げ、代金は 10 %の消費税を含めて掛けとした。なお、消費税は税抜方式で処理する。

ア．仮受消費税　　イ．仕入　　ウ．売掛金
エ．売上　　オ．仮払消費税　　カ．買掛金

14. 現金の実際有高が帳簿残高より ￥5,300 不足していたので、現金過不足勘定で処理しておいたが、その原因を調査したところ、同額のタクシー代金の支払額が記帳漏れとなっていることが判明した。

ア．現金　　イ．現金過不足　　ウ．旅費交通費
エ．立替金　　オ．雑益　　カ．雑損

15. 本日の売上の内訳は、下記の売上集計表に示すとおりである。合計額のうち ￥9,000 は現金決済、残額はクレジットカード決済であった。なお、クレジット会社への手数料（クレジット決済額の 2 %）も計上する。

ア．売上　　イ．クレジット売掛金　　ウ．支払手数料
エ．現金　　オ．受取手数料　　カ．買掛金

売 上 集 計 表

X8年10月20日

品　　名	数量	単価	金額
商品 X	50	200	￥　10,000
商品 Y	80	150	￥　12,000
	合　　計		￥　22,000